

京都女子大学

生活福祉学科紀要

第 3 号

Journal of Living and Welfare

Kyoto Women's University

No. 3

京都女子大学家政学部生活福祉学科

Department of Living and Welfare
Faculty of Home Economics
Kyoto Women's University

January 2007

生活福祉学科紀要

第 3 号

目 次

総 説

- 生活支援のための看護と介護の連携
..... 井上千津子..... 1
- わが国の心筋梗塞発症・死亡率の年次推移
..... 中村 保幸..... 7
- 京都における心臓病スポーツ・リハビリテーションの変遷
..... 下村 雅昭..... 13

解 説

- 防汚加工—表面加工とナノテクノロジー—
..... 上甲 恭平..... 17

原 著 論 文

- 生活保護費の支給に係る障害基礎年金の収入認定をめぐる問題
..... 山田 耕造..... 25
- 生活文化と介護福祉援助の関係についての一考察
..... 遠藤 清江..... 39

研 究 ノ ー ト

- 特別養護老人ホームにおける終末期ケアの現状と課題—A県下の施設職員への調査から—
..... 岡崎 利治, 片岡 靖子..... 47

生活福祉学科教員の研究活動等

- 53

生活福祉学科教員の研究活動等

(2006・1～12)

①単著, ②共著, ③編著, ④単著論文, ⑤共著論文, ⑥調査報告書, ⑦研究ノート, ⑧書評・その他, ⑨学会発表, ⑩社会的活動(学会・公的委員等, 講演, 所属学会・団体等)

なお, 各教員の研究活動等については, 2006年12月15日現在, 本人の申告に基づくものを掲載している。

石田一紀教授

③単編著

『介護における自立援助』(かもがわ出版, 2006・4, 190頁)

井上千津子教授

④単著論文

「ホームヘルプサービスで生活を支えるということは」地域リハビリテーション Vol.1, No.9

「看護と介護の連携」老年社会化学会 Vol.28, No.12006

⑩社会的活動

研修活動(福島県ホームヘルパー研修講師, 日本介護福祉士会基礎研修講師, 介護技術講習会講師), 学会活動(日本介護福祉学会シンポジスト, 日本認知症ケア学会研究発表座長, 日本認知症ケア学会教育講座講師, 全国高齢者ケア学会シンポジウム座長), 講演活動(日本介護学会記念講演, 京都ホームヘルプ連絡会講演会講師, 奈良福祉ネットワーク講演会講師, 神戸ホームヘルパの集い基調講演講師, 神奈川県介護施設協会総会記念講演講師)

遠藤清江講師

⑨学会発表

「アジア系外国人花嫁による家庭内介護への支援について」第14回日本介護福祉学会大会

⑩社会的活動

所属学会・団体(日本母性衛生学会, 日本特殊教育学会, 日本介護福祉学会, 日本社会福祉実践理論学会, 日本家族研究・家族療法学会, 日本精神遅滞教育研究会, 特定非営利活動法人全国高齢者ケア協会, 日本ソーシャルワーク協会), 学会・公的委員(東洋大学人間科学総合研究所客員研究員, 社会福祉法人大崎福祉会評議員)

岡崎利治助手

②共著

「地域福祉と社会福祉施設の役割」・『地域福祉論説』・みらい・2006年6月・pp 119-131。

⑤共著論文

「改めてノーマリゼーション原理を考える」・九州保健福祉大学研究紀要第7号・2006年3月・pp 133-143。

「対人援助専門職におけるデス・エディケーションの必要性について(1) —デス・エデュケーションプログラム開発の意義—」・九州保健福祉大学研究紀要第7号・2006年3月・pp 63-71。

「対人援助専門職におけるデス・エディケーションの必要性について(2) —『社会福祉援助技術演習』における取り組みをとおして—」・九州保健福祉大学研究紀要第7号・2006年3月・pp 73-79。

「対人援助専門職におけるデス・エディケーションの必要性について(3) —青年期の分離・個体化過程との関係から—」・九州保健福祉大学研究紀要第7号・2006年3月・pp 81-86。

⑧書評・その他

「九州保健福祉大学クオリティ・オブ・ライフ研究機構報告書2」・九州保健福祉大学クオリティ・オブ・ライフ研究機構・2006年3月

「対人援助専門職におけるデス・エデュケーションの必要性について」・平成17年度九州保健福祉大学学内共同研究・2006年3月

⑨学会発表

「特別養護老人ホームにおける終末期ケアのあり方」・第2回高梁学園学術研究コンファレンス（吉備国際大学）・2006年3月・pp 28-30。

「介護実習・第一段階前半の中間期における帰校教育の取り組み」・第14回日本介護福祉学会（県立広島大学）・2006年9月・p 53。

「特別養護老人ホームにおける終末期ケアの現状と課題 ― A県下の施設職員への調査から―」・第54回日本社会福祉学会（立教大学）・2006年10月・p 443。

下村雅昭教授

②共著

- 1) 「運動生理学・栄養学」, 第1章健康・体力づくりの意義と運動の効用 2. 健康・体力づくりの3本柱 3-4, 5. 運動とQOL 9-14, 第3章トレーニングと食生活 3.3 有疾患者 139-146, 建帛社, 2006
- 2) 「生涯スポーツと運動の科学」 “9章リハビリテーションスポーツと生涯学習, 2. 心臓リハビリテーションとしてのスポーツ種目 97-103, 市村出版 2006

⑤共著論文

杉本寛恵, 羽田龍彦, 下村雅昭, 殿城晴美, 浜崎博: 維持期虚血性心疾患患者における卓球中の呼気動態および血圧変動について, 心臓リハビリテーション 11 (1) 123-126, 2006

⑨学会発表

- 1) 浜崎博, 下村雅昭: 運動療法長期継続に関する社会的要因の検討, 第70回日本循環学会総会, 2006
- 2) 下村雅昭, 浜崎博: 維持期虚血性心疾患患者におけるゴルフ中の心拍数上昇と重度不整脈出現の背景, 第70回日本循環器学会総会, 2006
- 3) 下村雅昭, 浜崎博: 高齢心疾患患者の下肢筋肉分布が歩行能力及び活動量に及ぼす影響, 第70回日本循環器学会総会, 2006
- 4) 吉田紀子, 浜崎博, 下村雅昭, 中川久恵: 『100日100万歩』歩行プログラムが運動習慣に与える影響～長期リハビリテーション参加患者を対象として～, 第10回日本ウォーキング学会, 2006
- 5) 千葉真理子, 下村雅昭, 浜崎博: わが国の心臓リハビリテーションにおける運動療法普及の阻害要因と福祉政策に関する一考察―介護保険改正と維持期リハビリテーション利用者の不安感―, 第24回臨床運動療法研究会, 2006
- 6) 杉本寛恵, 羽田龍彦, 殿城晴美, 下村雅昭, 浜崎博: 維持期虚血性心疾患患者における長座位エルゴメーター実施時の呼吸循環動態, 第12回心臓リハビリテーション学会, 2006
- 7) 千葉真理子, 下村雅昭, 浜崎博: 居住区内維持期リハビリテーション参加者の不安感と経済的負担度に関する調査, 第12回心臓リハビリテーション学会, 2006
- 8) Masaaki Shimomura, Tatsuhiko Hata, Hiroshi Hamazaki: Heart rate level of golf swing in patients with chronic ischemic heart disease and in healthy controls, The 9th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, 2006
- 9) Mariko Chiba, Masaaki Shimomura, Hiroshi Hamazaki: Attitude toward Social Welfare Services among Ischemic Heart Disease Patients, The 9th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, 2006
- 10) 浜崎博, 下村雅昭: Pwdar-x 足圧分布測定器を用いた高齢下肢障害者の歩行特性の解析, 第57回日本体育学会, 2006
- 11) 杉本寛恵, 下村雅昭, 浜崎博: 京都における心臓病集団スポーツリハビリテーションの実践報告, 第3

回関西心臓リハビリテーションセミナー，2006

⑩社会的活動

- 1) 京都心臓リハビリテーション研究会
- 2) 日本体育学会
アダプテッドスポーツ科学分科会評議委員
- 3) 日本体力医学会
- 4) 日本心臓リハビリテーション学会
- 5) 日本循環器学会
- 6) Asian society for adapted physical education and exercise
- 7) アジア障害者体育・スポーツ学会日本支部会
「障害者スポーツ科学」編集委員
- 8) 日本スポーツ教育学会
- 9) 臨床運動療法研究会
- 10) 日本介護福祉学会
- 11) 日本福祉文化学会
- 12) 大学教育学会

上甲恭平教授

⑤原著論文

1. 菅井実夫・上甲恭平・林壽郎・荒井基夫，気液流染色加工機によるラミー布の中性条件下での修飾セルラーゼ処理，繊維学会誌，**Vol. 62**，No. 3，58-62 (2006)。
2. 岡部孝之・酒井香緒理・吉田洋子・上甲恭平，羊毛繊維への天然熱硬化性セラック樹脂の吸着挙動，繊維学会誌，**Vol. 62**，No. 6，123-129 (2006)。
3. K. Joko, and Y. Yoshikatsu, Function of the Cell Membrane Complex on Dyeing with Oxidation dye for Wool Fiber,, Proceedings of the 11th International Wool Research Conference, Leeds, **82FWS**, 1-10, (2006).
4. K. Joko, and Y. Yoshikatsu, A Novel Mechanism of Oxidative Dyeing for Keratin Fiber, Proceedings of the 24th International Federation of Societies of Cosmetic Chemists Congress, Osaka, **PF-139**, 1-7 (2006).
5. A. Osaki, K. Yamamoto, and K. Joko, Thermal Analysis of Human Hair in which disulphide bonds dissociated, Proceedings of the 24th International Federation of Societies of Cosmetic Chemists Congress, Osaka, **PF-204**, 1-7 (2006).
6. 上甲恭平・吉勝友美・坂田佳子，羊毛繊維の酸化染料染色における細胞膜複合体の役割，繊維学会誌，**Vol. 62**，No. 12，280-286 (2006)。

⑥研究報告書

上甲恭平・岡田倫子，羊毛繊維断面のアルカリ処理による形態変化，繊維・高分子機能加工第120委員会年次報告，**Vol. 56**，印刷配布中 (2006)。

⑧総説・解説

1. 「繊維表面機能加工とナノテクノロジー」：繊維機械学会誌；繊維工学，**Vol. 59**，No. 9，495-500 (2006)。
2. 「ケラチン繊維の機能—ジスルフィド結合の役割—」：繊維学会誌；繊維と工業，**Vol. 62**，No. 11，P-334-339 (2006)。

⑨学会発表（口頭・ポスター）

国内学会：

1. 上甲恭平，アルカリエッチングによる羊毛繊維断面の形態観察，日本学術振興会第120委員会合同分科会，東京，1月
2. 清水麻巳・松本史・上甲恭平・岡部孝之・濱田州博，塩素系防縮加工羊毛へのセラック吸着挙動，平成18年度繊維学会年次大会，東京，6月

3. 岡田倫子・前川昌子・上甲恭平, 繊維断面アルカリエッチング法による防縮加工羊毛の損傷評価, 日本繊維製品消費科学会年次大会, 神戸, 7月
4. 上甲恭平・吉勝友美・坂田佳子, 羊毛繊維に対する酸化染料を用いた染色における細胞膜複合体の役割, 日本繊維製品消費科学会年次大会, 神戸, 7月
5. 上甲恭平・桑原里実, ケラチン繊維の酸化染料染色における染色条件の影響, 日本繊維製品消費科学会年次大会, 神戸, 7月
6. 上甲恭平, 羊毛繊維の酸化染料染色における細胞膜複合体の役割, 日本学術振興会第120委員会合同分科会, 浜松, 6月
7. 岡部孝之・笠井大輔・小林菜由・濱田州博・上甲恭平, 防縮加工羊毛の酸性染色に及ぼす助剤効果, 繊維学会第46回染色化学討論会, 金沢9月
8. 安藝文彦・山本麻美・太田充・上甲恭平, 毛髪ガラス転移, 日本熱測定学会第42回熱測定討論会, 京都, 10月

国際学会:

1. K. Joko, and Y. Yoshikatsu, A Novel Mechanism of Oxidative Dyeing for Keratin Fiber, 24th International Federation of Societies of Cosmetic Chemists Congress, Osaka, 10月17日.
2. A. Osaki, K. Yamamoto, and K. Joko, 24th International Federation of Societies of Cosmetic Chemists Congress, Osaka, 10月17日.
3. K. Joko, and Y. Yoshikatsu, A Tentative Dyeing Mechanism with Oxidation Dye of Wool Fiber, 3rd International Dyeing and Finishing, Kyoto, 12月17日.
4. M. Okada, Y. Kimura and K. Joko, Surface Characteristic of Wool Fiber Cross Section treated with NaOH aqueous solution, 3rd International Dyeing and Finishing, Kyoto, 12月17日
5. T. Chuluun, Y. Hirata, K. Hamada, and K. Joko, Dyeing Ability of the Cashmere Fibers Scoured in Supercritical Carbon Dioxide Fluid, 3rd International Dyeing and Finishing, Kyoto, 12月17日

⑩社会的活動

【講演】

1. 「繊維表面加工技術の最新動向」: 繊維機械学会, 春期セミナー, 京都, 3月3日。
2. 「表面加工技術とナノテクノロジー」: 「EXCO」PID シンポジウム, 大邸 (韓国), 3月16日。
3. 「繊維の機能性加工について」: 岐阜県産業技術センター; 繊維研究部研究成果発表会, 岐阜, 4月21日。
4. 「防汚加工概論」: 繊維機械学会; 防汚加工講演会, 大阪, 7月21日。
5. 「羊毛試験・研究・開発のための機器分析法: 何が判るのか?」: 羊毛研究会, 一ノ宮, 8月24日
6. 「ジスルフィド結合 (-SS-) の役割」: 繊維応用技術研究会, 大阪, 11月30日。

【講義】

1. 「繊維素材」, 平成18年度みやこ技塾 京都市中小企業技術者研修, 京都, 9月8日。
2. 「精練・漂白Ⅰ」平成18年度 染色大学, 名古屋, 9月22日
3. 「精練・漂白Ⅱ」平成18年度 染色大学, 名古屋, 10月6日

鈴木依子講師

⑨学会発表

「在宅介護を経験した家族介護者が要介護高齢者の施設入居を選択したプロセスについて」日本ケアマネジメント学会第5回研究大会

「ホームヘルパーが自分の判断で行っていること」第4回日本介護福祉学会大会

田中由紀子助教授

⑤共著論文

安部祥子編『シリーズ高齢者介護の現在 (いま) 第2巻 効果的な在宅ケア』ミネルヴァ書房

⑩社会的活動

所属学会（日本生活学会，日本社会医学会），学会・公的委員等（日本介護福祉学会理事，介護福祉士国家試験実技試験委員）

千葉真理子講師

⑨学会発表

- 1) 千葉真理子：社会福祉サービスにおける非営利組織の運営—介護保険制度の変遷とサービス利用者のアクセスビリティの改善—。地方自治学会関西部会 2006.3
- 2) 千葉真理子，下村 雅昭，浜崎 博：わが国の心臓リハビリテーションにおける運動療法普及の障害要因と福祉政策に関する一考察—介護保険改正と維持期リハビリテーション利用者の不安感—。臨床運動療法研究会 2006.4
- 3) 千葉真理子：非営利組織の連携に関する一考察—健康増進サービス提供組織からの検討—。日本 NPO 学会 2006.6
- 4) 千葉真理子，下村雅昭，浜崎 博：居住区内維持期リハビリテーション参加者の不安感と経済的負担度に関する調査。日本心臓リハビリテーション学会 2006.7
- 5) Mariko chiba, Masaaki shimomura, Hiroshi Hamazaki: Attitude toward Social Welfare Services among Ischemic Heart Disease Patients. The 9th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise 2006. 2006.8

⑩社会的活動

- 1) 日本社会福祉学会
- 2) 日本地域福祉学会
- 3) 日本心臓リハビリテーション学会
- 4) 日本 NPO 学会

中村保幸教授

②共著

1. 中村保幸：強心配糖体の作用機序と副作用 pp 60-65. In 齋藤宗靖編「循環器病の薬物療法」メジカルビュー社，東京 2006年1月1日
2. 中村保幸：わが国における虚血性心疾患の動態：疫学研究より pp 10-15. In 野出孝一編「冠危険因子」メジカルビュー社，東京 2006年11月20日

④単著論文

1. 中村保幸：恩師 A 先生 京都女子大学生生活福祉学科紀要 2006；2：29-33。
2. 中村保幸：ハイリスク患者の心血管死亡予後—NIPPON DATA80 血圧 2006；13（11）：1164-1165。
3. 中村保幸：メタボリックシンドロームと我が国の健康施策 日本臨牀 2006年増刊号「メタボリックシンドローム」pp 44-49

⑤共著論文（英文）

1. Takamiya T, Kadowaki T, Zaky WR, Ueshima H, Evans RW, Okamura T, Kashiwagi A, Nakamura Y, Kita Y, Tracy RP, Kuller LH, Sekikawa A. The determinants of plasma plasminogen activator inhibitor-1 levels differ for American and Japanese men aged 40-49. Diabetes Res Clin Pract. 2006; 72(2): 176-82.
2. Okamura T, Kadowaki T, Sekikawa A, Murata K, Miyamatsu N, Nakamura Y, El-Saed A, Kashiwagi A, Maegawa H, Nishio Y, Takamiya T, Kanda H, Mitsunami K, Kita Y, Edmundowicz D, Tamaki S, Tsujita Y, Kuller LH, Ueshima H. Alcohol Consumption and Coronary Artery Calcium in Middle-aged Japanese Men. Am J Cardiol 2006; 98: 141-144.
3. Nakamura Y, Yamamoto T, Okamura T, Kadowaki T, Hayakawa T, Kita Y, Saitoh S, Okayama A, Ueshima H. Combined Cardiovascular Risk Factors and Outcome: NIPPON DATA80, 1980-94. Circ J 2006; 70: 960-964.

4. Nakamura Y, Iso H, Kita Y, Ueshima H, Okada K, Konishi M, Inoue M, Tsugane S. Egg Consumption, Serum Total Cholesterol Concentrations and Coronary Heart Disease Incidence: — Japan Public Health Center-based Prospective Study — *Brit J Nutr* 2006; 96: 921-928.
5. Tamaki S, Nakamura Y, Yoshino T, Matsumoto Y, Tarutani Y, Okabayashi T, Kawashima T, Horie M. The association between morning hypertension and metabolic syndrome in hypertensive patients. *Hyperten Res* 2006; 29: 783-788.
6. Kadowaki A, Sekikawa A, Okamura T, Takamiya T, Kashiwagi A, Zaky Q, Maegawa H, El-Saed A, Nakamura Y, Evans RW, Edmundowicz, Kita Y, Kuller L, Ueshima H. Higher level of adiponectin in America than in Japanese men despite obesity. *Metabolism* 2006; 55: 1561-1563
7. Tamaki S, Nakamura Y, Tabara Y, Okamura T, Kita Y, Kadowaki T, Tsujita Y, Horie M, Miki T, Ueshima H. Relationship between the metabolic syndrome and Trp64Arg polymorphism of the $\beta 3$ adrenergic receptor gene in a general sample (The Shigaraki Study) *Hyperten Res* 2006; 29: 891-896.
8. Okamura T, Tanaka H, Miyamatsu N, Hayakawa T, Kadowaki T, Kita Y, Nakamura Y, Okayama A, Ueshima H. The relationship between serum total cholesterol and all-cause or cause-specific mortality in a 17.3-year study of a Japanese cohort. *Atherosclerosis in press*
9. Tsujita Y, Nakamura Y, Zhang Q, Tamaki S, Nozaki A, Amamoto K, Kadowaki T, Kita Y, Okamura T, Horie M, Ueshima H. The Association between High-Density Lipoprotein Cholesterol Level and Cholesteryl Ester Transfer Protein TaqIB Gene Polymorphism is Influenced by Alcohol Drinking in a Population-Based Sample. *Atherosclerosis in press*
10. Hozawa A, Okamura T, Kadowaki T, Murakami Y, Nakamura K, Hayakawa T, Kita Y, Nakamura Y, Okayama A, Ueshima H. Serum-gamma-glutamyltransferase (GGT) predicts cardiovascular disease mortality among Japanese women whose prevalence of drinking was extremely low. *Atherosclerosis in press*
11. Hozawa A, Murakami Y, Okamura T, Kadowaki T, Nakamura K, Hayakawa T, Kita Y, Nakamura Y, Okayama A, Ueshima H. Relation of Adult Height with Stroke Mortality in Japan—the NIPPON DATA80- *Stroke in press*
12. Nakamura Y, Tabara Y, Miki T, Tamaki S, Kita Y, Okamura T, Ueshima H. Both Angiotensinogen M235T and α -Adducin G460W Polymorphisms are Associated with Hypertension in the Japanese Population. *J Hum Hypertens in press*

⑤ 共著論文 (和文)

1. 環慎二, 中村保幸, 堀江稔, 木之下正彦, 岩井直温: α -アデュシン遺伝子 日本臨牀 2006 年増刊号 高血圧 (第3版上巻) —最新の研究動向— 2006; 348-352

⑧ 書評・その他

1. 中村保幸: 平成17年度科学研究費補助金実績報告書(研究実績報告書) 基盤研究(C) 課題番号 17590563 研究課題名 動脈硬化予防のための日本人と日系ハワイ人におけるメタボリック症候群に関する研究
2. 上島弘嗣, 中村保幸, 環慎二, 辻田靖之, 喜多義邦, 岡村智教: 文部科学省旧特定領域研究ゲノム4領域 5年間の最終報告書 公募研究 地域住民における高血圧, 脂質代謝異常の遺伝要因と生活習慣との関連に関する研究

⑨ 学会発表 <国際学会>

1. Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima, Nagako Okuda, Aya Higashiyama, Yoshikuni Kita, Tomonori Okamura, Akira Okayama, National Soheli R Choudhury, Beatriz L Rodriguez, David J Curb. Adiponectin and the Prevalence of the Metabolic Syndrome Among Japanese Men and Women in Japan and Hawaii: The INTERLIPID Study. <46th Annual Conference on Cardiovascular Disease Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Pointe Hilton Squaw Peak Resort - Phoenix, AZ. Mar 2-5, 2006>
2. Tomoko Takamiya, Akira Sekikawa, Hirotsugu Ueshima, Aiman El-Saed, Takashi Kadowaki, Daniel

- Edmundowics, Tomonori Okamura, Rhobert W Evans, Yosyikuni Kita, Kim Sutton-Tyrrell, Yasuyuki Nakamura, J David Curb, Chol Shin, Lewis H Kuller. *Ethnic Differences in the Association of Carotid Intima-Media Thickness with Abdominal Fat Accumulation in Men Aged 40-49 from Population-Based Samples.* <46th Annual Conference on Cardiovascular Disease Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Pointe Hilton Squaw Peak Resort - Phoenix, AZ. Mar 2-5, 2006>
3. Takashi Kadowaki, Akira Sekikawa, Hirotsugu Ueshima, Tomoko Takamiya, Yasuyuki Nakamura, Aiman El-Saed, Tomonori Okamura, Kim Sutton-Tyrrell, Yoshikuni Kita, Lewis H Kuller *Lower Levels of Adiponectin Among Japanese than American Men After Adjusting for Abdominal Obesity.* <46th Annual Conference on Cardiovascular Disease Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Pointe Hilton Squaw Peak Resort - Phoenix, AZ. Mar 2-5, 2006>.
 4. Aiman El-Saed, Akira Sekikawa, Hirotsugu Ueshima, Riad Wahid Zaky, Takashi Kadowaki, Tomoko Takamiya, Tomonori Okamura, Yosyikuni Kita, Daniel Edmundowics, Yasuyuki Nakamura, Lewis H Kuller. *Different Associations of Lipoprotein-Associated Phospholipase A2 and Coronary Artery Calcification Among American and Japanese Men.* <46th Annual Conference on Cardiovascular Disease Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Pointe Hilton Squaw Peak Resort - Phoenix, AZ. Mar 2-5, 2006>
 5. Akira Sekikawa, Hirotsugu Ueshima, Kim Sutton-Tyrrell, Takashi Kadowaki, Tomoko Takamiya, Tomonori Okamura, Aiman El-Saed, Yoshiyuki Kita, Yasuyuki Nakamura, J David Curb, Chol Shin, Lewis H Kuller. *Differences in the Distribution of NMR Lipoproteins Did Not Explain the Lower Carotid IMT in Men Aged 40-49 in the Japanese in Japan as Compared to Whites in the US.* <46th Annual Conference on Cardiovascular Disease Epidemiology and Prevention in association with the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism. Pointe Hilton Squaw Peak Resort - Phoenix, AZ. Mar 2-5, 2006.
 6. T. Kadowaki, A. Sekikawa, T. Okamura, T. Takamiya, K. Murata, Y. Nakamura, K. Mitsunami, Y. Kita, L.H. Kuller, H. Ueshima: *INFLUENCE OF CIGARETTE SMOKING ON CORONARY AND AORTIC CALCIFICATION AMONG COMMUNITY-BASED JAPANESE YOUNG MEN* 14th International Symposium on Atherosclerosis. Rome, Italy June 18-22, 2006.
 7. T. Yamamoto, Y. Nakamura, T. Okamura, T. Kadowaki, T. Hayakawa, Y. Kita, A.Okayama, H. Ueshima: *PARTICIPANTS OF THE NATIONAL SURVEY ON CIRCULATORY DISORDEERS IN JAPAN (NIPPON DATA80, 1980-99).* 14th International Symposium on Atherosclerosis. Rome, Italy June 18-22, 2006.
 8. N. Miyamatsu, T. Kadowaki, T. Okamura, A. Sekikawa, K. Murata, A. Kashiiwagi, Y. Nakamura, T. Takamiya, Y. Kita, H. Ueshima: *THE RELATIONSHIP BETWEEN ALCOHOL INTAKE AND TRADITIONAL OR NON-TRADITIONAL RISK FACTORS FOR CARDIOVASCULAR DISEASE IN THE MIDDLE-AGED JAPANESE MEN.* 14th International Symposium on Atherosclerosis. Rome, Italy June 18-22, 2006.
 9. A. Kadota, T. Okamura, K. Nakamura, Y. Murakami, T. Kadowaki, T. Hayakawa, Y. Kita, A. Okayama, Y. Nakamura, H. Ueshima: *ASSOCIATION BETWEEN FAMILY HISTORY OF STROKE AND MORTALITY FROM ISCHEMIC STROKE AMONG JAPANESE* 14th International Symposium on Atherosclerosis. Rome, Italy June 18-22, 2006.
 10. Y. Nakamura, N. Okuda, A. Higashiyama, Y. Kita, T. Okamura, A. Okayama, S. Choudhury, B. Rodriguez, D. Curb, H. Ueshima: *OBESITY, ADIPONECTIN AND THE PREVALENCE OF THE METABOLIC SYNDROME AMONG JAPANESE MEN AND WOMEN IN JAPAN AND HAWAII: THE INTERLIPID STUDY* 14th International Symposium on Atherosclerosis. Rome, Italy June 18-22, 2006.
 11. Y. Ueno, Y. Nakamura, T. Kadowaki, T. Okamura, Y. Kita, N. Miyamatsu, A. Sekikawa, T. Takamiya, K. Sutton-Tyrell, H. Ueshima: *THE METABOLIC SYNDROME AND PRECLINICAL ATHEROSCLEROSIS IN MIDDLE-AGED JAPANESE MEN* 14th International Symposium on Atherosclerosis. Rome, Italy June 18-22,

- 2006.
12. T. Okamura, T. Kadowaki, A. Sekikawa, K. Murata, N. Miyamatsu, T. Takamiya, A. El-Saed, Y. Nakamura, A. Kashiwagi, H. Ueshima. ALCOHOL CONSUMPTION AND CORONARY ARTERY CALCIFICATION DETECTED BY ELECTRON-BEAM COMPUTED TOMOGRAPHY IN MIDDLE-AGED JAPANESE MEN 14th International Symposium on Atherosclerosis. Rome, Italy June 18-22, 2006.
 13. S. Kadowaki, T. Hayakawa, T. Okamura, K. Nakamura, Y. Murakami, Y. Nakamura, T. Kadowaki, S. Saito, A. Okayama, H. Ueshima: RELATIONSHIP OF CORONARY HEART DISEASE MORTALITY TO CASUAL BLOOD GLUCOSE LEVEL AND SELF-REPORTED PAST HISTORY OF DIABETES MELLITUS 14th International Symposium on Atherosclerosis. Rome, Italy June 18-22, 2006.
 14. Tanvir C Turin, Yoshikuni Kita, Yoshitaka Murakami, Nahid Rumana, Akira Okayama, Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima. Spring peak pattern for stroke incidence among subjects bothwith and without history of hypertension: Takashima Stroke Registry. The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. October 15-19, 2006, Fukuoka, Japan.
 15. Shinji Tamaki, Yasuyuki Nakamura, Tomohide Yoshino, Yuichi Matsumoto, Yasuhiro Tarutani, Tabito Okabayashi, Takeshi Kawashima, Minoru Horie. The association between morning hypertension and the metabolic syndrome in hypertensive patients. The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. October 15-19, 2006, Fukuoka, Japan.
 16. Shinji Tamaki, Yasuyuki Nakamura, Yasuharu Tabara, Tomonori Okamura, Yoshikuni Kita, Takashi Kadowaki, Yasuyuki Tsujita, Minoru Horie, Tetsuro Miki, Hirotsugu Ueshima. Relationship between the metabolic syndrome and the Trp64Arg polymorphism of the $\beta 3$ adrenergic receptor gene in a general sample (The Shigaraki Study). The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. October 15-19, 2006, Fukuoka, Japan.
 17. Yasuyuki Nakamura, Tanvir C Turin, Yoshikuni Kita, Shinji Tamaki, Yasuyuki Tsujita, Takashi Kadowaki, Yoshitaka Murakami, Tomonori Okamura, Hirotsugu Ueshima. Waist-to-hip ratio was associated with cardiovascular risk factors independently of body mass index. The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. October 15-19, 2006, Fukuoka, Japan.
 18. Tomonori Okamura, Takashi Kadowaki, Akira Sekikawa, Naomi Miyamatsu, Tomoko Takamiya, Yasuyuki Nakamura, Lewis Kuller, Hirotsugu Ueshima. The relationship between pulse wave velocity and aortic or coronary calcium in community-dwelling, middle-aged Japanese men. The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. October 15-19, 2006, Fukuoka, Japan.

⑨学会発表 <国内学会>

1. 中村保幸, 上野義記, 門脇崇, 岡村智教, 喜多義邦, 宮松直美, 関川暁, 高宮朋子, Kim Sutton-Tyrrell, 上島弘嗣: 腹部肥満, 炎症, 血圧が頸動脈硬化初期病変に關与する. 第16回日本疫学会学術総会 2006年1月23-24日 名古屋
2. 門脇崇, 上島弘嗣, 岡村智教, 喜多義邦, 宮松直美, 中村保幸, 関川暁, 高宮朋子: 喫煙による潜在性動脈硬化進展度の検討. 第16回日本疫学会学術総会 2006年1月23-24日 名古屋
3. 門脇紗也佳, 上島弘嗣, 岡村智教, 村上義孝, 門脇崇, 中村幸志, 早川岳人, 岡山明, 齊藤重幸, 中村保幸: 問診における糖尿病既往と随時血糖値の冠動脈疾患死亡リスク: NIPPON DATA80. 第16回日本疫学会学術総会 2006年1月23-24日 名古屋
4. Tomonori Okamura, Naomi Miyamatsu, Takashi Kadowaki, Yasuyuki Nakamura, Shinji Tamaki, Yasuyuki Tsujita, Tomoko Takamiya, Yoshikuni Kita, Akira Sekikawa, Daniel Edmundowicz, Kuller Lewis H, Hirotsugu Ueshima. The Relationship between Alcohol Intake and Coronary Calcification in Middle-aged Healthy Japanese Men. <第70回日本循環器学会総会・学術集会 2006年3月24日~26日, 名古屋>
5. Shinji Tamaki, Yasuyuki Nakamura, Yasuharu Tabara, Yasuyuki Tsujita, Tomonori Okamura, Yoshikuni Kita, Takashi Kadowaki, Minoru Horie, Tetsuro Miki, Hirotsugu Ueshima. Relationship between a Metabolic

Syndrome and the Polymorphism of the beta3 Adrenergic Receptor Gene in a General Sample (S-Town study).
 <第70回日本循環器学会総会・学術集会 2006年3月24日～26日, 名古屋>

6. Tanvir Chowdhury Turin, Yoshikuni Kita, Yoshitaka Murakami, Nahid Rumana, Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima. Weekend after Increase in Stroke Incidence among Old Age Japanese Population <第70回日本循環器学会総会・学術集会 2006年3月24日～26日, 名古屋>
7. Yasuyuki Nakamura, Hirotsugu Ueshima, Nagako Okuda, Aya Higashiyama, Yoshikuni Kita, Tomonori Okamura, Akira Okayama, Sohel Choudhury, Beatriz Rodriguez, David Curb. Adiponectin and the Prevalence of the Metabolic Syndrome among Japanese Men and Women in Japan and Hawaii: the INTERLIPID Study. <第70回日本循環器学会総会・学術集会 2006年3月24日～26日, 名古屋>
8. Shinji Tamaki, Yasuyuki Nakamura, Yasuharu Tabara, Yasuyuki Tsujita, Tomonori Okamura, Yoshikuni Kita, Takashi Kadowaki, Minoru Horie, Tetsuro Miki, Hirotsugu Ueshima. Relationship between a Metabolic Syndrome and the Polymorphism of the Beta3 Adrenergic Receptor Gene in a General Sample (S-town study) <第70回日本循環器学会総会・学術集会 2006年3月24日～26日, 名古屋>

⑩社会的活動

主な所属学会 日本循環器学会 (評議員: '94年4月～),
 日本循環器管理研究協議会 (評議員: 2001～),
 日本心臓病学会 (Fellow, FJCC 2002～), 日本内科学会,
 American College of Cardiology (Fellow, FACC 1990～),
 European Society of Cardiology (Fellow, FESC 2002～),
 編集委員 International Journal of Cardiology: Editorial Board 2000年～
 Atherosclerosis: Editorial Board 2006年～

山田健司助教授

④単著論文

「認知症高齢者への対応」『福祉用具プランナーテキスト』財) テクノエイド協会, pp 102～114

⑥調査報告書

「福祉用具による生活動作・介護県境の変化についての調査報告書」神奈川県社会福祉協議会
 科学研究費補助金基盤C「少子高齢社会における外国籍ケアワーカー受入れ製作と教育課程に関する国際比較中間報告書」

⑨学会発表

「介護という権利侵害」日本医療社会学会
 「簡易型自立度評価表の有効性と利用方法の実証研究」日本介護福祉学会

⑩社会的活動

所属学会 (日本障害学会, 日本人間・環境学会, 日本認知科学学会, 日本介護福祉学会, 日本社会福祉学会),
 学会・公的委員 (介護保険福祉用具情報提供委員会委員, 特別養護老人ホームさくら・身体障害者療護施設
 かえで・身体障害者療護施設みずき・第三者評価委員), 講演 (香川県社会福祉施設職員人権セミナー講師,
 香川県小中学校福祉教育担当教諭研修会講師)

山田耕造教授

③単編著

『テキストブック現代社会福祉法制』法律文化社, 260頁

⑩社会的活動

所属学会 (日本社会保障法学会, 日本労働法学会, 民主主義科学者協会法律部会), 学会・公的委員 (近江
 八幡市障害福祉計画等策定委員会会長), 講演 (京都女子大学生生活福祉学科公開講座講師)

和田佳奈子助手

④単著論文

「高齢期の住まいと暮らし方～グループリビングの可能性について～」第6回日中韓居住問題国際会議研究論文集, pp 230～235

⑦研究ノート

「グループリビング志向の高齢者予備軍の特性—高齢期の住まいと暮らし方に関する調査を通して—」京都女子大学生生活福祉学科紀要第2号, pp 35～49

⑨学会発表

「介護実習・第1段階前半の中間期における帰校教育の取組み」日本介護福祉学会第14回全国大会分科会
「福祉に活かす旅」日本福祉文化学会第17回全国大会交流分科会

⑩社会的活動

所属学会（日本福祉文化学会, 日本介護福祉学会, 日本社会福祉学会）学会・公的委員（日本社会福祉士会京都支部理事, 広域NPO法人「アミューズメント・パリアフリー協会」理事, 日本福祉文化学会関西ブロック理事, 京都府第三者評価事業（介護サービス）調査員, 大阪市老人福祉センター指定管理者選定委員会委員, 京都府介護保険情報の公表事業調査員）, 講演（大阪市北区保健福祉センター・民生委員地域福祉研修会講師, 京都府・第三者評価事業・介護サービス評価者養成研修講師）

京都女子大学生生活福祉学科紀要投稿規定

(平成 2004 年 12 月 1 日制定)

1. 原稿は生活福祉学科に関係のある原著論文、総説、自由論叢、研究室だより、学級、卒業生だより、実習記および見学記などとする。投稿者の制限は設けない。
2. 原稿の採否、分類は、編集委員会に一任とする。編集委員会は必要により外部識者に査読を依頼する。また、原稿中の字句については、加除、修正を行うことがある。
3. 原著論文は他誌に未発表のものとする。
4. 原稿はワープロを使用し、印字した原稿と共にフロッピーディスクに書き込んで提出する。
5. 原稿の書き方は下記の通りとする。
 - (1) 原著論文は表題頁、英文抄録 (250 語以内)、本文、文献、図説、表、図の順にまとめる。
 - (2) 原著論文の本文は可能な限り見出しを付け I. はじめに、II. 方法、III. 結果、IV. 考察 (V. 謝辞) の順とする。
 - (3) 原著論文は表題の下に著者名を書き、つづいて英文表題とローマ字著者名を記載する。続いて著者の所属機関名および住所、連絡先 (含 Email address) を和文、英文で記す。
 - (4) 文章はひらかな、当用漢字を用い、現代かなづかいにより、化学用語は文部省学術用語による、外国語音訳にはカタカナを用いる。
 - (5) 本文の区分はポイントシステムにより、大見出し、中見出し、および小見出しを明確にする。なお、小見出し以下の区分はアルファベットによる。

〔例〕 II. 方法

 1. 生活習慣調査
 - 1) 食品等摂取量・頻度の調査
 - A. 飲酒量
 - (6) 句読点およびカッコには 1 こまを与える。ハイフンは 1 こまの中に明瞭に書く。新しい行の初めは 1 こまあける。
 - (7) 一般に通用している物質名、術語などに対しては外国語を用いないこととする。
 - (8) 数字はすべてアラビア数字を用い、数量は原則として C.G.S. 単位を用いる。
 - (9) 表、図および写真の番号は表 1、表 2、…図 1、図 2、…のように表わし、表の説明は表の上を書く。図の説明は、別の用紙にまとめて書く。
 - (10) 図、表および写真は本文中に挿入箇所を明示して、別に添付する。
 - (11) 本文中の引用文献番号は出現順に両カギ括弧 [] をつけて本文と同じ大きさで書く。文献は本文中の文献の項目に番号順に並べる。
 - (12) 引用文献が雑誌の場合は著者名、表題名、雑誌名、年号、巻数、頁数の順に書き、引用文献の略し方は原則として日本化学総覧および Chemical Abstracts の規定による。著者が 7 名以上ある場合は 3 名まで記し、残りの著者は その他、または et al. と略す。

例) Hines LM, Stampfer MJ, Ma J, Gaziano JM, et al. Genetic variation in alcohol dehydrogenase and the beneficial effect of moderate alcohol consumption on myocardial infarction. N Engl J Med 2001; 344: 549-555.
 - (13) 引用文献が書籍の場合は 著者名：論文名、in 書名、(編集者名)、版数、発行者、発行地名、発行年 (西暦)、起始一終了頁 を記入する。

例) 藤原久義：心臓腫瘍 in 心臓病学 (河合忠一編)、初版、朝倉書店、東京、1986 年、pp784-789.
6. 校正は著者が行うことを原則とする。総説、原著論文、自由論叢については希望者に対し別刷 20 部を贈呈する。それ以上の希望数に対しては実費を申しうける。
7. 紀要に掲載された総説、原著論文、自由論叢、その他全ての著作権は京都女子大学家政学部生活福祉学科に属すものとする。

編集委員 ○印は委員長

石田 一紀 井上千津子 上甲 恭平 中村 保幸 ○山田 耕造

京都女子大学 生活福祉学科紀要 第3号 (非売品)

2007年1月6日 印刷

2007年1月10日 発行

編集委員代表

編集者 山田 耕造
発行所 京都女子大学家政学部生活福祉学科
〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35
電話 075-531-2142
印刷所 中西印刷株式会社
京都市上京区下立売通小川東入
電話 075-441-3155~8
